

新潟・群馬・長野におけるプリオン病の発生状況

研究分担者：西澤 正豊 新潟大学脳研究所神経内科学分野

研究協力者：春日 健作 同遺伝子機能解析学分野

研究要旨

新潟・群馬・長野の3県におけるプリオン病の発生状況を調査し、サーベイランス委員会に報告するとともに、特異な経過等を呈した例は個々に発表・報告を行う。

A. 研究目的

新潟・群馬・長野3県におけるプリオン病の発生状況(人口に対する発症頻度、孤発性・遺伝性・獲得性の割合)が、本邦の他ブロックと比べ特徴があるか、あるいは前年度以前と比べ変化があるかを確認する。

B. 研究方法

新潟・群馬・長野3県からプリオン病サーベイランスに登録された症例全例を対象とし、主治医に症例情報を確認し発生状況を把握するとともに、特に経過を呈する症例に関しては個別により詳細な臨床情報を確認する。

(倫理面への配慮)

本研究において、対象症例のプライバシーの保護に関する規則は遵守されており、また情報開示に関し当施設所定の様式に基づいた同意を取得している。

C. 研究結果

平成26、27年度(平成28年1月25日現在)は新潟・群馬・長野3県においてサーベイランス委員会からの調査依頼は40例であり、

うち25例の臨床情報が確認できた(15例は情報未回収のため引き続き調査中)。さらにこれまでのサーベイランスにおいて情報が未回収であった症例を再調査することにより11例の臨床情報が確認できた。

これら36例のうち、27例が平成26年9月、2月および平成27年9月のサーベイランス委員会で検討を経て、孤発性CJD probableとされたものが10例、possibleとされたものが4例、遺伝性CJD probableが3例であり、9例はCJDは否定的と考えられ、1例は診断不明であった。残る9例は平成28年2月のサーベイランス委員会で検討予定であるが、うち1例は硬膜移植後の発症であり獲得性CJDと考えられる。

D. 考察

平成26年、27年度の新潟・群馬・長野3県におけるCJDの発生状況については、平成27年2月のサーベイランス委員会での検討を待ち結論づける必要があるが、1例は硬膜移植による獲得性CJDの可能性がある。

E. 結論

プリオン病は感染症の側面をもつ疾患であることから、引き続き新潟・群馬・長野 3 県における発生状況を監視する必要がある。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表 (2014/4/1～2016/3/31 発表)

1. 論文発表

Kasuga K, Takeuchi R, Takahashi T, Matsubara N, Koike R, Yokoseki A, Nishizawa M. Multifocal hits for propagation of prion protein in sporadic Creutzfeldt-Jakob disease. Neurol

Neuroimmunol

2014;2(1):e53

Neuroinflamm.

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

特記事項なし